出品目録

「加藤三良右衛門書展」

６月２日(火)～１３日(土)
リフレギャラリーにて

数字と展示順は異なります。また題名は便宜上の略記です。

句（おもに定型句）の部

１．裸子や（野見山朱鳥句）……加藤三良右衛門蔵
２．河鹿聴く（福田蓼汀句）……〃　蔵
３．沙熱し（加藤楸邨句）……〃　蔵
４．初蟬や（中村明子句）……〃　蔵
５．真っ青の（森下まゆみ句）……〃　蔵
６．蟬涼し（福田蓼汀句）……〃　蔵

句（おもに自由律）の部

７．高原の雲（河本緑石句）……〃　蔵
８．一日物云わず（尾崎放哉句）……〃　蔵
９．漬物桶に（　〃　）……〃　蔵
１０．久しぶりの（　〃　）……〃　蔵
１１．寒鮒を（　〃　）……〃　蔵
１２．鳩がなくま昼の（　〃　）……〃　蔵
１３．障子あけて置く（　〃　）……〃　蔵
１４．竹の葉（　〃　）……〃　蔵

歌（おもに短歌）の部

１５．巨勢山乃（万葉集・坂門人足歌）……〃　蔵
１６．月読みの（良寛歌）……〃　蔵

漢文（漢詩など）の部

１７．地僻門深（白居易の詩）……〃　蔵
１８．浅間山頭（良寛の詩）……〃　蔵
１９．粛條三間屋（　〃　）……〃　蔵
２０．国上山頭（　〃　）……〃　蔵
２１．放孟白石上掛（　〃　）……〃　蔵
２２．莫道草庵（　〃　）……〃　蔵
２３．不忘遠（孟子の詩）……〃　蔵
２４．無有花有月（蘇軾の東坡集より）……〃　蔵
２５．国破山河在（杜甫の詩）……〃　蔵
２６．花看半間（菜根譚より）……〃　蔵

その他（四字熟語など）の部

２７．大願成就……〃　蔵
２８．臥薪嘗胆……〃　蔵
２９．四時逸興……〃　蔵
３０．青山緑水……〃　蔵
３１．釣魚自娯……〃　蔵
３２．喫茶喫飯、他是非我……〃　蔵
３３．青空のあなた……〃　蔵

■■■■（３４以降は裏面へ）■■■■

３４．花摘む野辺に……　〃　蔵
３５．観世音……　〃　蔵
３６．あれ天人に……　〃　蔵
３７．涼……　〃　蔵
３８．黄金虫は……　〃　蔵
３９．花は黙って咲き（柴山全慶師作）……　〃　蔵
４０．改良でも進歩でも（永井荷風作）……　〃　蔵
４１．お互いが競いながら……　〃　蔵
４２．クヨクヨスルナ（シンミン五訓）……　〃　蔵
４３．世界に一つだけの花……　〃　蔵
４４．空にさえずる（唱歌・武島羽衣作）……　〃　蔵

特別展示（加藤さんから頂いた方々の所蔵の作品）の部

４５．いのちあるかぎり（中島教之語）……三好和恵蔵
４６．捨てきれぬ（鈴木真砂女句）……　〃　蔵
４７．掬水月（平良央詩句）……　〃　蔵
４８．春が来た（高野辰之詞）……山下加代子蔵
４９．茄子汁の（村上鬼城句）……　〃　蔵
５０．コスモスの影（花蓑の句）……風炉田真澄蔵
５１．山の紅葉は（をさはるみ語他）……山根喬市蔵
５２．ささら沙羅の花（清水重道詩）……入江敏子蔵
５３．家のまわり（河本緑石句）……毛利和子蔵
５４．雪見酒（星野椿句）……　〃　蔵
５５．滝落ちて（水原秋櫻子句）……南場兄一蔵
５６．六月（茨木のり子詩）……　〃　蔵

「加藤さんの書を展示すること」

加藤さんは満９１歳の今も広大な土地に８００種におよぶ椿を育て、多種多様な花木をも愛して、その世話を欠かさない。

花木の世話を済ませると、ひとり茶室でお茶を嗜みながら、短歌や俳句、詩や漢詩の書物を開く。興が乗れば筆を執り、それらを書にする。今までに厖大な数の書をものにしている。

ここで加藤さんの書をあえて語ってみる。このたび「加藤三良右衛門書展」を企画した経緯などを良寛（1758~1831）を引き合いに出して・・・。

一．加藤さんは公募展はもちろん身近な書道展などにも出品していない。茶室を訪ねた者たちが好めばそれを分け与える。お金に換えることもない。良寛がそうであったように。

二．書歴や肩書をもたない、高名な書家についたこともない。「書らしくない」書であり「うまさもかたちも否定した」書だ。良寛がそうであったように。

三．とはいってもけっして我流ではない。日展第五科「書道」の中でも調和体を好む加藤さんは古今の調和体の書を目標にしている。良寛が王義之や小野道風の書をそばに置いたように。

四．ある会員の一人が加藤さんを称して「良寛さんのようだ」と口にする。師から「大愚良寛」と親しみをもって呼ばれた良寛が、愚かに、穏やかに、しかも強く自然の中に埋もれて生きたように・・。

師をもたず、書暦も無い書家があってもいい、良寛がそうであったように。

来月満９２歳になる加藤さんは、間もない夏椿の初花を心待ちにしている。

「加藤さんの書を愛する会」代表、南場兄一